

2026年2月19日

パース海外研修 2025 報告書

国際委員会
小野澤 秀典

2月4日の午後2時30分に羽田空港国際線ターミナル3のシンガポール航空カウンターにパース海外研修の参加者全員が元気に集合しました。

東京からは、夢の島ヨットクラブの山村南菜さん、江東区立小中学校セーリング部からは伊藤照真さん、神奈川からは葉山松セーリング協会の内田有希さんと平野萌生さん、香川県からはB&G高松海洋クラブの川北華子さんの5名です。

搭乗前に記念撮影を参加者、家族、同行者の全員で行い、選手5名で「頑張るぞー👊」と手を上げて出国ゲートに入りました。

出国ロビーでは楽しくおしゃべりをしながら午後4時20分の搭乗ゲートオープンを待って、シンガポール経由パース行きシンガポール航空のフライトに乗り込み、午後4時40分に羽田空港を飛び立ちました。



参加者5名は機内での睡眠をまづまづとれたようで2月5日の朝5時30分にパース国際空港に到着しました。

空港には、ロイヤルパースヨットクラブ(RPYC)のコモドアの Andrew さん、兄で西オーストラリア ILCA 協会会長の Micheal さん、その父親の Roy さんが我々を迎えに来てくれました。

早速彼らの3台の車に荷物と共に分乗して、Andrew さんのご自宅に行きました。

そこで朝食をご馳走になり、長い空路の旅の疲れをとりプールや Andrew さんの子供たちとくつろぎました。

お昼にはインド洋が見える海岸通りをドライブして研修会場となる RPYC に到着しました。



RPYC のオフィスに一旦荷物を下ろして、全員で市内にあるパース動物園に行きました。カンガルーやコアラは見ることはできましたが、森林に住むタスマニアデビルやその他の小動物は暑さで草むらの中に潜んでおり見ることはできませんでした。

午後4時には RPYC に戻り、お世話になるクラブ関係者にお土産を渡して、参加者がお世話になるホストファミリーの迎えを待ちました。

そして、午後5時過ぎには全員が緊張しながらも元気にホストファミリーに引き取られて行きました。



2月6日の2日目は朝9時に RPYC のディンギーヤードに9時に集合しました。初めてのホームステイで緊張していた5人ですが、すぐにホストファミリーと打ち解けたようでこやかな笑顔になっていました。

OP のチャーター艇を 5 隻受け取り、早速フィッティングに取り掛かり、午前中に終了できました。

お昼は RPYC で揚げたてのフィッシュ&チップスをいただき、大満足。



予定どおり午後 1 時にはスワンリバーのレース海面でのセーリング練習に出艇して行きました。

風は西寄りの振れの大きい 2~4m/s でしたが、2 時ごろには 6~8m/s に吹き上がり、スピード練習、コース練習、スタート練習を行いました。

最後になって、伊藤照真さんの艇のデッキブロックが外れて応急対応で直し、山村南菜さんの艇もラチェットブロックが効かずシートが滑ることがわかり、3 時前に練習を終了して戻りました。

やはりチャーター艇はセーリングをしてみて不具合がわかるので、実戦に合わせて良い練習ができたと思います。

練習の反省会では、個々のセーリングでの注意点やレース海面の特徴とコースの取り方などを説明し、明日からのレースに合わせて帆走指示書での要点を説明しました。

3 時を過ぎるとディンギーヤードでは学校が終わった子供たちが自艇を運びながら集まって来ました。

一緒に練習をしたかったとのローカルセラーもおり、残念がっていましたが写真を撮るなどして交流をしました。

雲ひとつない晴天のパースの青空に日焼けをした子供たちは、午後5時にはホストファミリーの家に戻って行きました。

3日目はいよいよ The Refined Edge Mini Series のヨットレースが始まります。RPYC には 135 隻の参加艇と 200 名を超える選手、関係者で埋めつくされました。

OP 以外には、ILCA7~4、オープンスキフ、テイザー、29er、セイバー、シャーク、RS フィーバー、RS エアロ、フィン、ミラーディンギー、ハンザ 303、リバティと日本ではなかなか見ることができない多種多様なヨットが勢揃いです。

我々海外研修参加者は OP 級にエントリーしており、参加艇数 21 隻のフリートです。8時に集合して、8時30分の艇長会議に参加し、その後日本チームが集まり3分間隔でのスタート方法やコース、得点などの帆走指示書の確認を行いました。9時20分になんとか OP 参加艇が出艇して行きましたので、5人が集まり輪になり気合のエールを行なって遅れないように出艇しました。



OP クラスが行う B 海面はハンザクラス、オープンスキフと同じ海面で、今日は風が 3~5m/s の弱風でしたのでソーセージコースが選択され、レースが始まりました。

初日は風向が南から西に変わりながら徐々に風力が徐々に上がってきた中、日本チームは見事な成績を上げました。

第1レースでは伊藤照真さんがトップ、川北華子さんが2着、

第2レースでは平野萌生さんがトップ(結果は OCS)、2着が連続で川北華子さん、

第3レースでは内田有希さんがトップ、伊藤照真さんが2着、平野萌生さんが3着のワンツースリー。

一旦、ランチでハーバーに戻り、予約していたサンドイッチとバーガーなどを美味しくいただきました。

午後2時になり、再度出艇申告を行い、シーブリーズが吹き始めたレース海面に出て行きました。

第4レースは、平野萌生さんがトップ、伊藤照真さんが2着、川北華子さんが3着の続けてのワンツースリー、

第5レースは、風速が8m/sへ徐々に上がってきて、伊藤照真さんが2着、

第6レースではさらに吹き上がり、最大10m/sのシーブリーズの中、伊藤照真さんが2着の結果でした。

初日の総合では1位が伊藤照真さん、2位がオーストラリア代表のHarry、3位が平野萌生さん、4位が川北華子さん、5位が内田有希さん、山村南菜さんが16位でした。

日本チームが上位を占めて、レース関係者も驚いていました。

強風の中、5名の選手の怪我や艇のトラブルもなく、午後5時には片付けも終わり、ホストファミリー迎えに応じて意気揚々に戻って行きました。



8日はThe Refined Edge Mini Seriesの最終日です。

朝8時に集合し、8時30分からの艇長ミーティングに出て、スタート時間などの確認をしました。

風向、風力はほとんど昨日と同じ状況でしたので、選手5名とミーティングを行い、9時30分にスワンリバーのレース海面に出艇しました。

2日間で10レースが予定されており、昨日6レースを消化したので今日は4レースが予定されています。レース海面では思ったほどの風が吹いておらず、3~4m/sの中、トラベコースで実施しました。

第7レースでは、安定しない風の中、伊藤照真さんがトップ、2位にライバルのHarry、平野萌生さんが4位、内田有希さんが6位と好調のスタートになりました。



その後、風が落ちてしまい、ハーバーの戻って早めのランチをとりました。

パースの子供達との交流が始まり、選手も昼のひと時を楽しんでいました。

2時近くになり、シーブリーズがスワンリバーに吹いてきたので再度出艇しました。

7レースまでで、伊藤照真さんがトップ、3点差で Harry がついています。

残り3レースなので逃げ切りを図りたいところです。

第8レースでは、4~5m/sの弱いシーブリーズでしたが、Harryがトップ、伊藤照真さんが3位となり得点差が1点になりました。

このレースでは平野萌生さんも上位でしたが、残念ながらUFDでした。

第9レースでは風も6~8m/sに上がってきました。

このレースではスタートから川北華子さんがトップでしたが、最後の2上で抜かれましたが強風の中3位でのフィニッシュは見事でした。

トップの結果はHarryが2位、伊藤照真さんが4位となり1点差で逆転されてしまいました。

いよいよ最終第10レースです。

風も本格的に8m/sのシーブリーズとなりました。

伊藤照真さんは相当緊張していたようで、3分シークエンスのスタート時間を5分と間違えてしまい、セールをチェックをされていて気がついた時は1分以上の遅れたスタートになっていました。

オージーセーラーは小柄でも強風に強い選手が多く、1位~4位はオーストラリア勢で、5位に強風に強い内田有希さんが入りました。彼女はこのレースでOP最後のレースとなることもあり、感慨深そうでした。

さて、総合でのトップ争いは、Harryは途中で半チンし、アカを汲み出していたため6位、伊藤照真さんは追い上げましたが13位でした。

それぞれがこのレースがカットレースになったことで総合の点差は1点でHarryが優勝しました。

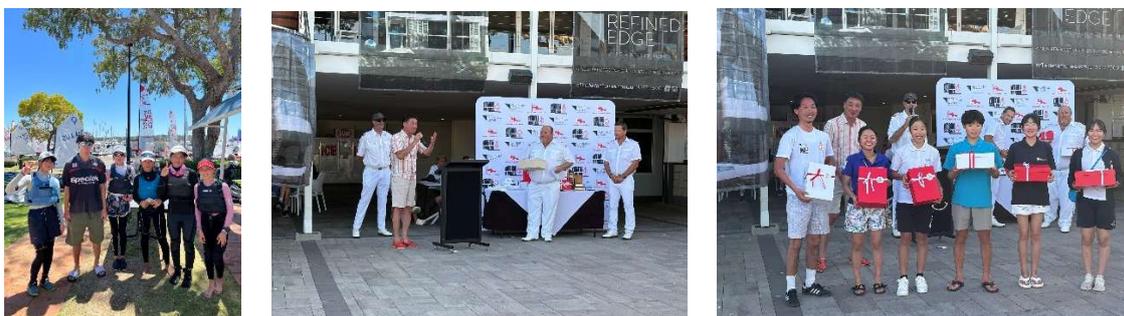


午後5時から表彰式が行われ、コモドアの Andrew から日本チームの健闘が讃えられ、全員に蜂蜜やお菓子のパッケージをいただきました。

伊藤照真さんは OP open クラスで第2 となり参加者全員から温かい拍手と賞金をいただきました。

JJYU の佐藤チームリーダーが日本チームを代表して感謝のスピーチを行い、引き続きの Mini Series レガッタを通じての交流を進めることを確認しました。

表彰式が終わると恒例の日本のお菓子を現地の子供達に配るのでたくさんの地元のジュニアセーラーが集まり、記念撮影をして楽しく過ごしました。



最終日の9日です。研修参加者の5名は早朝にホストファミリー宅を涙のチェックアウトをして、9時に指導者のホテルに集まりました。

全員の荷物をホテルに預けて、スワンリバーのフェリーが出ているエリザベスキーというパース港に歩いて向かいました。

天候は薄曇りの風も弱い穏やかで涼しい観光日和になりました。

11時15分発のフェリーに乗船して、一路外洋に面しているフリーマントルへ向かいますが、途中の瀟洒な別荘群やヨットクラブの豪華な係留ボートを見ながらのクルージングは圧巻なものでした。



1時間であっという間にフリーマントルに着き、その足でシーポートミュージアム(海洋博物館)の視察に行きました。

アメリカズカップを初めてアメリカから奪取した初めてのウイング艇のオーストラリアIIや木造のいろいろなデンギー、そして帆船でイギリスから移民した歴史などがわかりやすく見学することができました。

ランチはフリーマントルの定番のフィッシュ&チップスやパンの器に入ったクラムチャウダーをいただきました。



午後は買い物ドライブで、マーガレットリバーのチョコレート工場の売店に行って、試食をしながらバレンタイン用のチョコレートを購入しました。

次にパース市内のウォータータウンのアウトレットに行き、学校やクラブの友達用にいろいろなお土産を買っていました。

最後にスーパーマーケットに行って、お土産のお菓子を買っていました。

8時にホテルに戻り、たくさんのお土産をスーツケースにパッキングしパース国際空港に行きました。



パース国際空港では、スーツケースの重量オーバーが心配でしたが、スムーズに出国手続きが終わり出立ロビーでゲームなどをして寛ぎました。

パース空港を10日の夜中に出発して、機内では疲れもあり全員が熟睡していました。シンガポール経由で羽田空港へは予定どおり午後3時半に到着しました。

空港ではご家族の方の出迎えを受けて、日に焼けた参加者は満面の笑顔で解散しました。

今年は天候に恵まれ比較的涼しい環境でヨットレースや観光ができました。参加選手もレースでは過去にない素晴らしい成績を上げることができました。
また、RPYCの関係者からは素晴らしいサポートとホストファミリーの暖かいホスピタリティを受けて、最高に記憶に残る海外研修ができたと思います。
改めて関係者の方々に感謝を申し上げます。

以上